

財団法人新潟県都市緑花センター 平成22年度事業計画

1 センター事業会計事業計画

財団法人新潟県都市緑花センターの基本財産の運用益等により、「緑豊かなまちづくりに向けた緑花の推進」「ISO 環境マネジメントシステムの推進」「県民とともに公園を育てる」をキーワードとして事業を行う。

(1) 都市緑化における調査及び研究事業

①芝生地の管理に関する調査研究(継続)

新潟の地域特性にあった芝生地の管理手法を確立しコスト削減を図るため、鳥取県で実践されているローコスト芝生地造成管理の手法に基づき、紫雲寺記念公園及び県立植物園にて試験施工を実施済みであり、両公園において維持管理を継続するとともに、新たに新潟県スポーツ公園においてスポーツターフとしての耐性についての試験を実施する。また、新潟市教育委員会の校庭芝生化モデル校実施に関わることによりデータ収集を行うなど、調査研究を継続する。

試験地：新潟県スポーツ公園 3,000 m²

新潟市教育委員会校庭芝生化モデル校：新潟市立鏡淵小学校（平成22年度実施予定）

②ISO14001 環境マネジメントシステムの更新及び認証範囲拡大（継続）

平成22年12月の認証更新に向け、環境マネジメントシステムの更なる発展に向けた取り組みを行う。

(2) 都市緑化に関する普及及び啓発事業

①花と緑のアドバイザー派遣制度(継続)

花と緑のアドバイザーを各種開催団体が実施する緑化講演会、緑化学習会等に派遣するとともに、センターが企画する自然観察会等においても積極的に活用する。

②広報活動の充実(継続)

都市緑化の意義や当センターの活動状況等、情報を広く県民に提供するため、情報誌(Green sketch)を年2回発行する。ホームページでは、当センターが管理運営する公園の情報紹介ページを設けるとともに、情報誌の内容とホームページを連携させて内容の充実を図る。

③写真コンテストの開催（継続）

まちの中の緑や花を増やし、守り育てる意識を高めるため、都市公園の魅力、まちなかの緑の効用など、写真を通して都市緑化の普及啓発を図るためのコンテストを開催する。入選作品については、新潟県スポーツ公園や植物園等で作品展を開催するほか、広報誌等で活用する。

(3) 都市緑化に関する保全及び推進事業

①花と緑のパートナーづくり事業(継続)

緑豊かな潤いあるまちづくりを推進するため、ボランティア団体、企業、民間団体や学校等が実施する緑化活動に対して助成する。

2 鳥屋野潟公園事業会計事業計画

新潟県都市公園条例第15条の3第1項により、県立鳥屋野潟公園（新潟県スポーツ公園北地区）の管理・運営をアルビレックス新潟・都市緑花センターグループとして行うもの。

(1) 事業の概要

都市公園名	所在地	管理面積	H22予算額	H21当初予算額	増減	対前 年比
			(A)	(B)	(A-B)	
鳥屋野潟公園（スポーツ公園北地区）	新潟市 清五郎 地内	44.8ha	495,758	539,772	▲44,014	91.8%
		スタジアム	305,245	340,235	▲34,990	89.7%
			12,612	20,995	▲8,383	60.1%
			園地	177,901	178,542	▲641

(2) 事業計画

①管理運営の基本方針 ～自然とスポーツの大規模都市公園での「場」の提供～

東北電力ビッグスワンスタジアムを中心とするスポーツ公園北地区には、常に憩い、安らぎ、賑わい、美しさ、楽しさ、感動の「場」がある。野球場を中心施設とする南地区を加えてより充実した公園とするために「自然」と「利用」の調和のとれた管理運営に努め、様々な「場」を提供していく。

ア) 県内スポーツの殿堂

- ・トキメキ新潟国体の選手強化や国体で使用された実績をもとに、さらなる競技力向上に向け各競技団体との連携に努める。
- ・大規模イベントを中心に可能な限り利用希望にそえるよう各競技団体・利用団体との調整に努めます。また、南地区のエコスタジアムにおける大会・イベントなどの開催にも配慮して調整に努める。
- ・2018年、2022年のFIFAワールドカップ新潟開催、2019年のラグビーワールドカップ新潟開催誘致に向け、各協会などとの連携に努める。

イ) 気軽にスポーツを楽しめる場

- ・「ビッグスワン」、「スワンフィールド」は大会での利用が主であるが、園地の多目的運動広場では野球、サッカー、ラグビーなどより幅広く気軽に利用できるように努める。

ウ) 文化・イベントの舞台

- ・コンサートなどの大規模イベントの誘致を積極的に行うとともに、展示会等の小規模イベントの誘致にも努め、利用者ニーズに応えるよう努める。

エ) 貴重な自然の財産を守り、活用するために

- ・自然環境の保全、再生に努め、木を大きく、花を美しく育て、豊かな園地を創出します。
- ・ビッグスワンと園地の調和の取れた景観を意識した質の高い管理を行い、さらなる魅力アップにより、利用者の満足度向上に努める。

オ) 地域活性化の拠点

- ・県民の交流拠点の場として「公園まつり」などを商工会等地元団体と連携して実施する。
- ・ビッグスワンで開催される大会やイベントを地元業者に紹介し、参加・協力を得るなど地域活性化の貢献に努める。

カ) 安心安全なスポーツ公園

- ・ビッグスワンでは、定期的に施設の保守点検を行い、また園地では定期的な巡回を行うとともに、所轄の警察署・消防署からも協力いただき、公園利用者が安心して快適に利用できるように努める。
- ・災害時には、公園のオープンスペースが様々な活用が考えられることから、地域の防災計画と連動して都市防災の一翼を担っていく。また、ビッグスワンを災害救助訓練の場として利用できるよう協力していく。

②利用計画

ア) 東北電力ビッグスワンスタジアム

a) サッカー

- ・Jリーグ・ヤマザキナビスコ杯・なでしこリーグ、天皇杯、国際ユースサッカー決勝、県高校サッカー決勝、少年サッカー大会等

b) ラグビー

- ・県高校ラグビー決勝

c) 陸上競技

- ・第58回全日本実業団対抗陸上選手権、北信越高等学校陸上競技大会、新潟県高校総体陸上大会 等

d) その他

- ・青陵高校体育祭、鳥屋野中学体育祭、真人幼稚園マラソン大会、スポーツ用品店展示会等

イ) 自主事業

a) スポーツ公園フェスタ

(昨年の実施概要)

- ・サッカー、ラグビー、陸上の各トーク・スポーツ教室、少年ラグビービッグスワンカップ、フリーマーケット、バックヤードツアー等

b) 新春フェスタ

- ・トラック無料開放、餅つき大会、キャラクターショー、バックヤードツアー等
- c) 都市緑花フェア
- ・少年サッカー大会、バックヤードツアー

3 野球場公園事業会計事業計画

新潟県都市公園条例第15条の3第1項により、県立鳥屋野潟公園（スポーツ公園南地区）の管理・運営をアルビレックス新潟・都市緑花センターグループが行うもの。

(1) 事業の概要

(単位：千円)

都市公園名	所在地	管理面積	H22予算額	H21予算額	増減	対前年 比
			(A)	(B)	(A-B)	
県立鳥屋野潟公園(スポーツ公園南地区)	新潟市 中央区 長潟地内	14.3ha	130,136	108,250	21,886	120.2%
		野球場	104,847	85,250	19,597	123.0%
		園地	25,289	23,000	2,289	110.0%

(平成21年度は7月1日より管理開始)

(2) 事業計画

①管理運営の基本方針 ～県民一人が年1回利用する公園に～

スポーツ公園（北地区）と合わせ、「新潟県スポーツ公園」全体の年間利用者数を新潟県の人口とほぼ同数の240万人を目標として利用促進に努める。

ア) 新潟の野球レベルの向上

- ・プロ野球が開催可能な球場であり、ハイレベルなプレーを間近で観戦し、且つグレードの高いグラウンドで実際にプレーすることにより、新潟の野球レベルの向上が大いに期待されることから、関係団体との強固な関係の下で、プロ野球やBCリーグの誘致を図り、新潟における野球文化の向上に努める。

イ) 安全、安心の提供

- ・北地区での経験と技術を活かし、利用者の全てが安心して過ごせる空間の創出に努める。
- ・広域避難場所としても、その機能を最大限に発揮できるように努める。

ウ) より多くのニーズに応える公園管理

- ・「新潟県スポーツ公園」として、県民にスポーツを通じて、健康、楽しさ、感動、喜び、憩いを提供する管理に努める。
- ・より多くのニーズに応えられるよう、北地区が賑わう時には南地区で安らぎを、南地区が賑わう時には、北地区で落ち着いた空間を提供するなど、一体管理のメリット存分に活かし、満足度の向上に努める。

②ハード オフ エコスタジアム新潟 利用計画

ア) プロ野球の開催

5月8日(土)9日(日) 横浜ベイスターズ VS 読売ジャイアンツ

- (主催：BSN 新潟放送)
- 6月29日(火) 西武ライオンズ VS 北海道日本ハムファイターズ
(主催：新潟日報社)
- 7月24日(土) プロ野球オールスター戦
(主催：社団法人日本野球機構)
- 9月10日(金) 読売ジャイアンツ VS 広島東洋カープ
(主催：読売新聞社)
- 10月2日(土) プロ野球ファーム選手権
(主催：社団法人日本野球機構)

イ) BCリーグ 新潟アルビレックスベースボールクラブの試合の開催

4月4日(日) 対群馬から10試合開催(予定)

ウ) 主な全国大会、北信越大会、県大会の開催

第54回 JABA(財団法人日本野球連盟)選抜新潟大会(社会人野球)

第92回全国高等学校野球選手権新潟大会 準決勝戦、決勝戦

大学野球関東甲信越大会

還暦野球全国大会

第37回社会人野球日本選手権大会最終予選

第122回北信越地区高等学校野球大会新潟大会 準決勝戦、決勝戦、順位決定戦

4 紫雲寺記念公園事業会計事業計画

新潟県都市公園条例第15条の3第1項により、県立紫雲寺記念公園の管理運営を当センターが行うもの。

(1) 事業の概要

(単位：千円)

都市公園名	所在地	管理面積	H22 予算額	H21 当初予算額	増減	対前年比
			(A)	(B)	(A-B)	
紫雲寺記念公園	新発田市 藤塚浜地 内	74.3ha	147,889	146,020	1,869	101.3%
			(103,154)	(102,585)	(1,300)	(100.6%)

※下段()は屋内運動施設管理委託料(平成22年度44,735千円、平成21年度43,435千円)を除く

(2) 事業計画

①管理運営の基本方針～すべての世代、多様なニーズに応える～

多様な機能を持つ県立紫雲寺記念公園の管理運営において、公園を訪れるすべての世代の方々の多様なニーズに対応し、満足してもらえるよう管理運営する。

そのために以下の公園を構成する各ゾーンの特徴を職員全員が理解し、長所を存分に引き出すための管理を実施する。

- ア) 海水浴・親水ゾーン
- イ) 海岸森林浴と憩いのゾーン
- ウ) 健康運動ゾーン
- エ) 文化交流と憩いのゾーン
- オ) 自然観察・研究ゾーン

管理運営するにあたり、「基本は安全、安心から」をモットーに常に利用者に対して安全、安心を提供する。

②主要実施項目

- ア) 海水浴・親水ゾーン
 - ・新発田市に安全サービスセンターの場所を提供して安全連絡員を配置し、藤塚浜海水浴場の事故防止等の安全サービスを提供することで安全で快適な海水浴場の運営を図る。
 - ・新発田まつり海上花火やビーチバレー大会、学校教育活動の場等として活用してもらう。
- イ) 海岸森林浴と憩いのゾーン
 - ・オートキャンプ場は、供用日の拡大による利便性の向上や料金引き下げ等によるサービス

の向上を図る。

ウ) 健康運動ゾーン

- ・チューリップ広場は、華やかな花々を植栽管理し見ごたえのある広場とする。
- ・地域住民と連携してチューリップや花苗の植付け等の花壇管理を行う。
- ・多目的運動広場は、的確な管理を生育状態を見ながら適期に管理するとともに利用者のマナー向上に努めて、良好な芝生を提供する。
- ・屋内運動施設の供用日を拡大して利便性の向上を図る。
- ・温泉施設「紫雲の郷」と連携を強め、屋内運動施設（プール・体育館）や温泉施設を利用した健康教室を行う。

エ) 文化交流と憩いのゾーン

- ・安全、安心を提供するため、遊具は日常点検のほかに専門業者による定期点検を年1回行う。
- ・松くい虫等により枯損した樹木を炭焼き施設により炭化させ再資源化する。

オ) 自然観察・研究ゾーン

- ・愛鳥センターと連携して探鳥会を行う。

カ) その他（公園全体として）

- ・安全、安心を提供するため、毎日のパトロールや月1回の重点パトロールで植栽の生育状況や設備、遊具等の目視点検を行い、安全を確認するほか、職員に対して救急法を含めた安全衛生教育を月1回行う。
- ・美しい自然景観を形作っている松林を保全するために、松くい虫予防のための樹幹注入や下草刈り、被害拡大を防ぐための伐倒処理（発生状況により春と秋～冬の年2回）を行う。
- ・地域住民や園内施設、行政機関等との連携により、円滑な公園管理運営を図る。各種イベントへの参加や支援することで地域の活性化を図る。

5 植物園事業会計事業計画

新潟県都市公園条例第15条の3第1項により、県立植物園の管理・運営を当センターが行うもの。

(1) 事業の概要

(単位：千円)

都市公園名	所在地	管理面積	H22	H21	増減	対前年度比
			予算額	予算額		
			(A)	(B)	(A-B)	
県立植物園	新潟市秋葉区 金津地内	19.8ha	275,900	275,900	0	100%

(2) 事業計画

①管理運営の基本方針

県立植物園が目指す植物園像

- ア) 四季を通じて楽しめる魅力的な植物園づくり
- イ) 貴重な植物・自然の保全及び自然環境教育の場としての植物園づくり
- ウ) 植物に関する情報発信、啓発活動の拠点としての植物園づくり
- エ) 次世代を担う青少年の活動拠点としての植物園づくり
- オ) 世界に通用する植物園づくり
- カ) まちづくりと地域振興の拠点としての植物園づくり

②主要実施項目

ア) 四季を通じて楽しめる魅力的な植物園づくり

園地の植栽を利用したチューリップのウェルカムガーデン(4～5月)、ボタンまつり(5月)の開催、エントランス花壇の草花植栽・プランター装飾、ミニガーデンコンテストの開催、新潟県を代表するツバキ、シャクナゲ等の植栽(園地・温室)、「新潟の地域性」「華やかさ」「文化・教育」をテーマとした企画展示(温室)

イ) 貴重な植物・自然の保全及び自然環境教育の場としての植物園づくり

保全に関する研究・保全活動への技術協力、講習会、展示等の開催

保全に関する研究の継続、保全活動への技術協力(オキナグサ、ミズアオイ、ヒメサユリ等)、雪割草・オキナグサ保全シンポジウムの開催、絶滅危惧植物展示等の開催、子供向け植物教室の開催、雪割草展示会の開催

ウ) 植物に関する情報発信、啓発活動の拠点としての植物園づくり

植物園だよりの発行、ホームページの充実、花と緑の教室の開催、花と緑の相談所の開設、iPodによる植物展示解説、開花情報ボードの掲示、園内に見どころマップの設置

エ) 次世代を担う青少年の活動拠点としての植物園づくり

小学校を中心とした学校への教育プログラム利用呼びかけ、大学インターンシップ・学芸員実習の受け入れ、子供向け植物・園芸教室の開催

オ) 世界に通用する植物園づくり

植物多様性保全拠点園ネットワーク（日本植物園協会）への参加、環境省生息域外保全への協力、海外植物園との調査保全協力、種子・植物交換実施、研究成果の公表

カ) まちづくりと地域振興の拠点としての植物園づくり

企画展示や園内植栽を通じた各種団体との協力、地域団体との共同によるイベントの開催・花壇づくり、出張園芸教室の開催、研究機関や大学への研究協力

6 収益事業会計事業計画

(1) 請負業務

施設名	施工地	予算額(千円)
南側駐車場管理	新潟市中央区長潟地内	450
新潟県都市緑花フェア開催委託	新潟市中央区長潟地内	1,000
合計		1,450

(2) 寄付行為第4条(5)に基づく、物品販売事業等の収益事業

公園名	事業内容
鳥屋野潟公園	ア) レストランの営業 イ) 自動販売機事業 10台 ウ) 売店事業 エ) 公衆電話事業 2台
紫雲寺記念公園	ア) バーベキュー卓利用管理事業 7卓 イ) 炊事棟「釜」管理事業 4口 ウ) 自動販売機事業 5台 エ) 売店事業
植物園	ア) カフェテリアの営業 イ) 売店事業 ウ) 自動販売機事業 4台 エ) 公衆電話事業 2台
その他	ア) 図書の販売 「里山の植物」の販売 「ようこそ緑の夢王国」の販売

(3) 指定管理公園内の緑花センター自主イベント開催

自主イベント開催時の物品販売等にかかる事業

公園名	事業内容
植物園	① 「植物園の日」(みどりの日) イベント開催(5月4・5日) ② 秋の植物園まつり(9月19・20日)
紫雲寺記念公園	① チューリップまつりの開催(4月29日)

7 全国都市緑化にいがたフェア記念特別会計事業計画

「第15回全国都市緑化フェア」実行委員会より寄付された浄財で行なう事業

(1) フェアイベント等開催費

緑花センター及び新潟県が主催、後援するもの及び緑化推進団体が開催する都市緑化イベントを通して、緑化意識の普及・啓発に努める。

- ・ 春の都市緑花フェア：新潟県スポーツ公園（新潟市）平成22年4月17、18日
- ・ 緑花センター20周年記念イベント：新潟県スポーツ公園（カナルコンサート併催）平成22年8月29日
- ・ 緑化イベント協賛：フラワーウェーブにいがた他 平成22年4月～10月